

# 茨城県阿見町における地域公共交通活性化・再生総合事業について

調査事業

## 現況及び課題

- 本町内に鉄道駅は無く、最寄り駅は隣接する土浦市のJR常磐線荒川沖駅及び土浦駅となっている。路線バスについては、関東鉄道株及びジェイアールバス関東株が5路線9系統運行しており、JR常磐線土浦駅、荒川沖駅の各駅から町内及び近隣の稲敷市方面への東西軸が主なルートとなっている。JR土浦駅は比較的頻度が高く、利用も多い路線であるが、JR最寄り駅である荒川沖駅方面への路線が少なく、通勤・通学を含めた西部地域への移動が困難な状況にある。また、町内の公共施設を巡回する無料の福祉巡回バスを運行しているが、利便性などの理由から年々利用者が減少している。
- 西部地域周辺と中央地域との間は、現在、公共交通の利便性が低いことが原因で通勤・通学者がマイカー送迎に依存しており、これらの人々の交通手段転換を念頭に置いた利便性の向上が課題である。それ以外の、中央地域・西部地域間の移動、また工業団地への通勤者や来訪者・出張者などの需要を効率よく重ね合わせる運用が可能であれば、バス車両の効率の良い運行を行うことができる可能性があり、これらの利用者のニーズ把握に基づいた整備の検討が求められる。

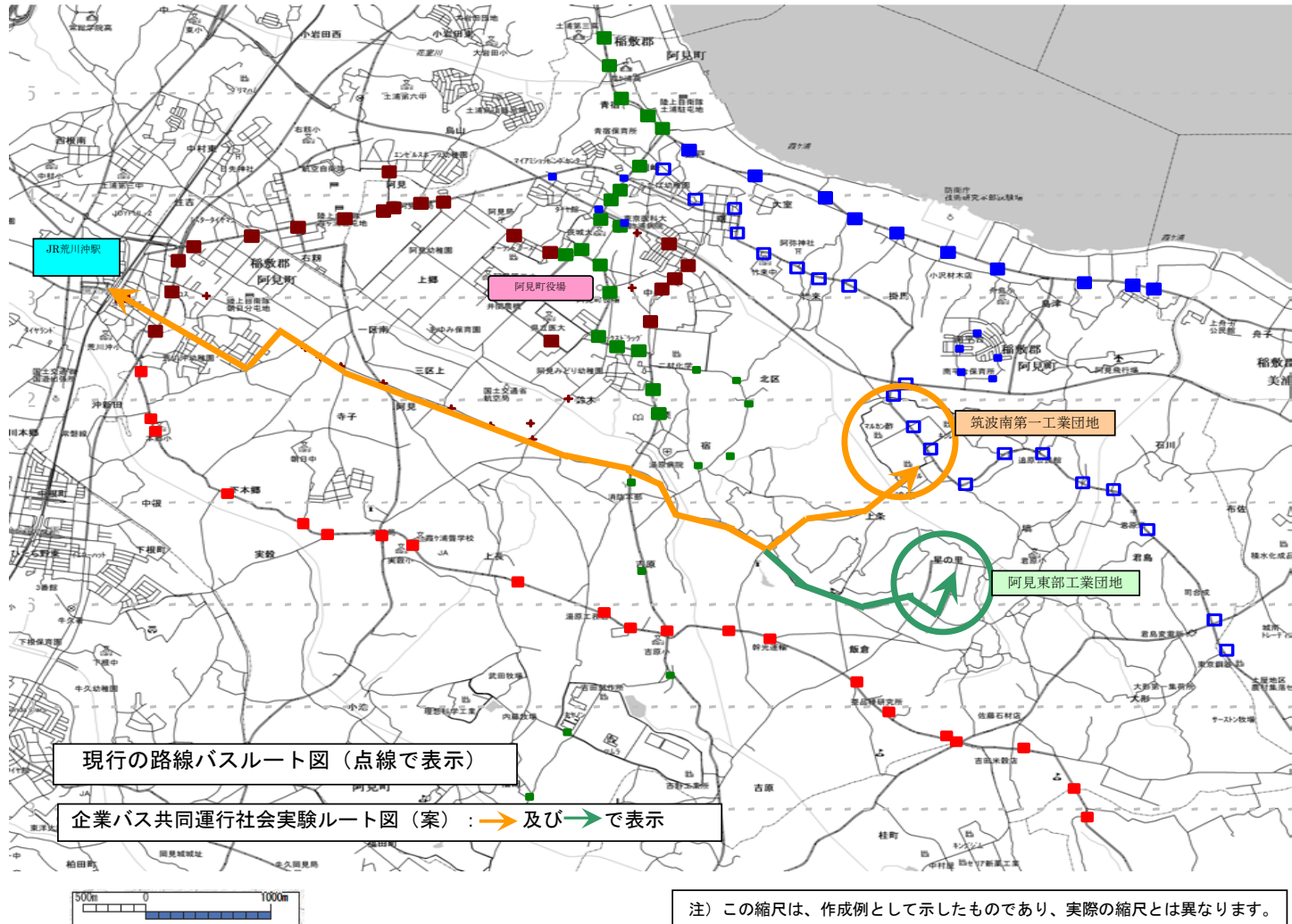
## 活性化の目標・方向性

- 公共交通が不十分な地域に対して、従来の路線バスの再編、コミュニティバス及びデマンドタクシー等の公共交通導入を検討し、町の公共施設や隣接市にあるJR駅へのアクセスの向上を図るとともに、町民の多くが利用するよう、情報提供、町民参画を進める。さらに、現行バス路線の維持や通勤・通学者、高齢者の移手段の確保など、町内公共交通の総合的な改善を図るため、交通実態調査の分析、町民の企業通勤バス利用の社会実験を行い、その費用削減効果・採算性を検証し、新たな交通体系づくりの指針となる地域公共交通総合連携計画を策定する。

## 実施する事業の内容

- 阿見町地域公共交通総合連携計画策定調査事業(平成21年5月～平成22年3月)
  - ◆現況交通の再生及び新たなしくみ導入に向けた実態調査の実施
    - ・地区別の詳細分析と将来動向の推定
    - ・土地利用と幹線交通の方向性と交通需要推計
    - ・フィーダー交通の方向性と需要推計
    - ・利用者分科会(ワークショップ)の実施
  - ◆企業通勤バス社会実験
    - ・企業の通勤者に一般町民の利用者を幹線バス交通に集約させたときの、社会的費用削減効果と事業採算性を調査・検証する
    - ・企業の意向確認と運行案の調整を行う
    - ・複数企業による専門部会を設立する
    - ・3～5ヶ月程度の実験運行を実施する(貸切バス事業者へ運行委託)
    - ・通勤者向けのモビリティマネジメントを実施する
    - ・一般町民への周知・広報を行う
    - ・事業評価とそのため調査・検証を行う

茨城県阿見町： 現行の路線バス運行ルート図及び企業バス共同運行社会実験運行（案）ルート図



現行の路線バスルート図（点線で表示）

企業バス共同運行社会実験ルート図（案）： → 及び → で表示

注) この縮尺は、作成例として示したものであり、実際の縮尺とは異なります。